一般社団法人 大学コンソーシアム熊本

令和５年度 第２回教育のあり方に関する協議会議事要録

１．日　時　令和 ６ 年 ３ 月１１日(月)　１６時００分から１６時４０分

２．場　所　熊本学園大学　本館　３階　特別会議室

３．出席者

講　師　清水　宏一郎（熊本市教育委員会事務局　学校教育部指導課　教育審議員）

出席者　金 栄緑（企画・運営委員長：熊本学園大）、上野 伸一（九看大）、西林 佳夫（九州ルーテル大：代理）、西村 明博（学園大）、中村 謙之（県技短：代理）、鈴木 元（県立大）、佐藤 敏明（熊本高専）、金岡 省吾（熊本大）、勝木 康子（熊保大）、岡原 安利（尚絅大）、長島 宏一（崇城大）、橋本 成人（東海大）、井坂 和義（中九短）、宇都 香織（平成音大）、野添 崇（代理：熊本県）、中村 雄大（代理：熊本市）、三枝 敬明（学生教育部会長）、大谷 順（国際交流部会長）、永田 健吾（熊本県教育庁：代理）

欠席者　内村 秀之（県技短）、河瀬 晴夫（熊保大）、内山 裕二（放送大）、小川 剛史（熊本県）、迫本 昭（熊本市）、柳田 紀代子（地域創造部会長）、前田 浩志（熊本県教育委員会）、荒森 靖夫（熊本経済同友会）

陪席者　今村 清寿（熊本県教育庁）

事務局　松村 健史（局長）、中西 真美子（次長）

４．講　演

（１）議長（企画・運営委員長）より講演の前に以下の発言があった。

本日は、最初に熊本市教育委員会事務局　学校教育部指導課　教育審議員の清水先生から「小中学校と大学との連携協力」という演題にてご講演をいただいた後、質疑応答の時間を設ける。その後、「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン」と関連付けて意見をいただければと思う。

（２）講演「小中学校と大学との連携協力」

熊本市教育委員会事務局　学校教育部指導課　教育審議員の清水宏一郎氏から講演があった。

この後、以下の質疑応答があった。

（質問）ユア・フレンドに登録する学生には資格があるのか。

（回答）資格は特にない。熊本大学との連携事業なので、教育学部生として教育学を学んでいるということはあると思う。九州ルーテル学院大学や熊本学園大学などには心療系や福祉系の学科があるが、資格を取るためにも関係する方たちと接することは有意義かと思う。ユア・フレンドでは特に必要な資格は要しない。教員になりたいという学生にとってはよい事業かと思う。

５．「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン」（資料２）についての意見交換

（議長）コンソのようにいくつかの大学が連携して取り組むべきものと個々の大学で取り組むものもあると思う。先ほどの講演では小中学校と大学の連携事業についてのお話があったが、高校と地域、高校と大学が関わる取組みがあれば紹介いただきたい。

（永田委員）地域との連携事業では、現在、高校魅力化の中で進めているのは学校単独ではなく地場や地場以外の企業や地元の自治体と連携しながら探究活動等を含めて学んでいこうというスタイルで積極的に取り組んでいる。典型的な例では、阿蘇の高森高校のコアミックスという出版会社と連携した漫画学科や、天草市の誘致企業と連携した天草工業高校の情報技術科に新設される CG 系列

などがある。同じような形で第２、第３の例が実現できればと考えている。また、キャリア教育につながる面もあると思われるので引き続き取り組んでいく。

（今村氏）以前から出前授業等では各大学、各県立高校とは連携を進めている。最近では、探究活動に各学校は注力しており、年１回高等教育課で各大学に窓口調査を行い、連携可能な取組み内容について聞き取り、その情報を各県立高校に提供している。その情報を見て各高校からそれぞれの大学へ様々な連携の相談が行われているかもしれない。その他、現在、理系の取組みを行っており、スーパーサイエンスハイスクール、理系の学科を持っている高校で熊本サイエンスコンソーシアムをつくっており、熊本大学、崇城大学、熊本保健科学大学に課題研究の指導の支援等をお願いしている。他大学にもそのような支援をいただけるとありがたい。

（議長）

「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン」の中に、2040 年の展望と高等教育が目指すべき姿として、「必要とされる人材像と高等教育の目指すべき姿」と「高等教育と社会の関係」というテーマがあり、取り組むべき項目がいくつか示されているが、「産業界との協力・連携」、「地域への貢献」が、コンソで取り組む教育のあり方に関する議論の対象になると考えられる。高大連携や先ほどお話のあった小中学校と大学の連携はすべて地域への貢献に入るだろう。大学と小中学校、高校との連携が本日の協議会のテーマになると思われる。永田委員と今村氏の話にあった探究学習については大学の研究が活用できると思われるので、今後その点を活かして高大連携、地域連携へ発展できればと考える。

（金岡委員）

高校との連携としては、現在、熊本大学では天草高校、玉名高校、八代高校のほぼ全学年との連携を強め始めている。その他、私立城北高校、大津高校とも始めている。総合的な探究はかなり各高校が悩んでいる課題ではないか。いろいろとデータ収集も行っているが、生徒に向けて地域が面白いかと問いかけると、面白いそうだという答えが返ってくることはきわめて少ない。地域の探究を行うと、瞬間風速ではあるが高校での地域の魅力感は上がる。高校との連携をどのように進めるべきか重要視するべきである。データから見えてくることを述べると、各県別の進学率では、熊本は大学が数多くあるので進学率は高い。全国的な動向をみると公立大学が増えている。この傾向は各都道府県別の進学率を挙げようとしていることを示している。高大連携や小中学校との連携が密接に関連して進学率が動きそうに思われる。また、高大連携は高校側から強く望まれている。ここはコンソが深く関わることのできる分野である。さらに、地域の企業も高校との連携に積極的な姿勢をみせ始めており、今後データにあらわれてくるだろう。直近１年のデータに以上のようなことがあらわれていると実感している。

（議長）コンソの目標の一つに県内の進学率向上がある。単に大学への進学者が増加するということではなく、地域と連携・地域に貢献しながら結果的に進学率の向上につながっていくということが好循環を生むということが、「教育のあり方に関する協議会」のテーマにかなう適切な表現であると思われる。

以上で、本日の協議会は終了する。

以　　上